

### 第3回 蕨市新庁舎建設基本構想・基本計画審議会 会議概要

■日 時 平成30年7月10日（火） 午後2:00～4:00

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者 （敬称略）

委 員：齊藤正人（会長）、山際幸平（副会長）、保谷武、鈴木智、大石幸一、秋山滋雄、石川里保、牛窪啓詞、岡本和子、藤井康榮、大貫芳枝、大矢初美、松本和敏

事 務 局：川崎文也（理事）、佐藤慎也（総務部長）、高橋稔明（都市整備部長）、根津賢治（総務部次長兼庁舎建設室長）、菊地雅治（庁舎建設室係長待遇）、伊東安治（庁舎建設室係長待遇）、金子真司（庁舎建設室技術主査）、森本悠理（庁舎建設室主事）、井上久誉、中塚圭郁（株式会社大建設計）

#### ■次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 第1回会議における質問・確認事項について
  - (2) 新庁舎建設と上位計画等の整合について
  - (3) 市民アンケート結果報告（速報）
  - (4) 庁内職員アンケート結果報告
  - (5) 新庁舎の基本的な考え方（基本理念）と基本方針
  - (6) 新庁舎に求められる役割と機能（案）
  - (7) 新庁舎の規模
  - (8) その他
4. 閉会

#### ■内 容

##### 【開会】

事務局から、開会のあいさつを行った。

##### 【会長あいさつ】

会長からあいさつを行った。

## 【議題】

- (1) 第1回会議における質問・確認事項について
- (2) 新庁舎建設と上位計画等の整合について
- (3) 市民アンケート結果報告（速報）

事務局から、会議の資料について説明した。

委員： アンケートの対象者 3,000 人について、地区別の配布数にばらつきがある理由を教えてください。また、3,000 人という数字を採用した根拠はあるのか。新庁舎建設に際しての調査ならもう少し多くてもよい気がする。最後に、選択肢以外に自由意見を記入する欄は設けたのか。設けていた場合、記述の内容を教えてください。

事務局： 対象者 3,000 人は住民基本台帳に基づき、蕨市の 18 歳以上の男女約 6 万 5,000 人を地区別、年齢別の比率に基づいて、無作為抽出している。昨年度の庁舎耐震化整備に関する市民アンケートと同規模であり、市が毎年実施している市民意識調査の対象者が 1,000 人であることから、通常より大規模である。統計的にも有効な回答を得るためには十分な規模である。

調査票の末尾には自由意見欄があり、各設問の選択肢以外にその他を選んだ場合も自由に記述ができる。内容については現在集計中である。

会長： 回収率は若干、塚越地区が少ないが、何か理由はあるのか。

事務局： 全体の回収率は 48.1% であり、昨年 of 市民アンケートの 45.1% に比べて、かなり高くなっている。地区別の回収率の違いは、関心度の差が出ていると推測している。

## (4) 庁内職員アンケート結果報告

事務局から、会議の資料について説明した。

会長： 市職員が考える利用者の不満や不便と、市民アンケートの結果がかなりマッチングしているのは、職員と市民が共通の認識を持っているということか。

事務局： そのような結果が出ていると考えている。

委員： 職員の要望に「食堂・売店の設置」とあるが、昔地下にあった食堂がなくなった理由を教えてください。近隣商業施設との関係か。

事務局： 昭和 56 年に入庁した時点で既になかった。職員の利用が減って事業者が撤退したという話を聞いた。

委員： 来庁者が飲食できる場所はあったほうがよいので、設置に支障がないなら進めたほうがよい。分かる範囲で課題を教えてください。

- 事務局：採算性が一番の課題と認識している。近隣商店とのバランスもある。なお、食堂・売店の設置に関する要望については、学食のような食堂までは求めておらず、現在ロビーで実施している障害者のパン販売を行うスペースや自動販売機などを多く設置してほしいとも読みとれる。
- 委員：厨房付きの食堂は管理の手間があり、多くの市民が利用しないと採算が取れない。出前などを取れるスペースを作ればよいのでないか。
- 委員：地域の人を考慮してもらえるのはありがたいが、市役所はこれだけの職員を抱えているので、職員が気持ちよく働けるのが一番である。  
病院のように、一般の人が入れない職員専用の食堂で、朝食を取らない独身男性が定食を食べられるような環境が大事である。
- 会長：意見を整理すると、食堂・売店を作るにあたって強い制約がない可能性があるが、設備や予算が限られているようである。具体的な議論に入る時に改めて話をしたいので、安全衛生や火災など食堂に関する課題があるなら、その時に事務局は示してほしい。
- 委員：私も病院関係に行く機会が多いが、大きな病院は患者のために、外部の人でも利用可能なイートスペースを設けている。職員が遅くまで働いているのを見ると、厨房設備までは不要だが、障害者が作っているパンやコーヒーなどの軽食を提供するなどの配慮は必要と考える。
- 委員：庁舎が狭いため、収納スペースが1番の課題になることは分かるが、災害対策本部を兼ねる会議室について具体的な要望は出ていないのか。
- 事務局：収納スペースについては、問8の優先度が高い機能で上位になっている項目と関連している。物を収納する場所がなく、自席の周りに物を置くことで、狭隘な執務スペースとなっている例がある。また、会議室については、災害対策本部など兼用可能な会議室について、庁内でも要望が出ている。
- 委員：現庁舎の課題に、「防犯セキュリティ対策が不十分」とあるが、どのような意味か。
- 事務局：窓口業務で、少し怖い来庁者に迫られた際に逃げ場がないという話を聞いたことがある。
- 委員：IoT化が進んでネット社会になる中、文書保管について、国はデジタル化など時代に即応した手法を導入したようである。蕨市は、職員1人当たりの執務スペースが県内で狭いほうであるため、そうした配慮は必要だが、長期的視点で、将来の技術を考慮すべきである。  
また、増加傾向にある外国人で減少する就労人口を補うという話があるが、彼らが、権利や義務などの市民意識を高められるよう、市庁舎で多言語による情報提供を行うなど、受入れ体制も配慮してほしい。
- 会長：第1回審議会で外国人が多いという意見があったが、どの程度の割合か。

事務局： 約 8.5%である。

会長： 市庁舎にコミュニケーションを取れる場所があった方がよいという意見があった。情報提供に当たっては表記の仕方など日本語だけでは不十分なことも考えられるので、固有の対応が必要と感じる。

また、限られたスペースで保管文書がたまると大変なので、意見にあったデジタル化を進めるとともに、不可能なものは代替手法を整理して、将来のボリュームを予測することが必要と考える。

色々重要な意見があったが、次の議題に関連しているため、そこで改めて意見をもらうこととして一区切りとしたい。

#### (5) 新庁舎の基本的な考え方（基本理念）と基本方針

事務局から、会議の資料について説明した。

会長： 言葉のカードとして組み合わせた基本理念案と基本方針案が示されたが、各委員が考える基本理念と基本方針があると思う。意見と質問はあるか。

委員： 第 6 位「市民による多様な交流ができる開かれた庁舎」を重視することに反対はしないが懸念がある。敷地面積や床面積、予算の上限があるため、今回の庁舎は、第 4 位「建設・維持管理のコストを抑制」と、第 5 位「経済性にすぐれたコンパクトな庁舎」を重視する必要がある。

資料の 35 ページに、各部屋の面積案として、会議室、倉庫、書庫に交流機能なども含めて固有業務 2,200 m<sup>2</sup>という案が示されているが、交流機能は庁舎ではなく、市民会館、公民館、公園などに求めるものであり、本来必要な機能を充実した上で、予算と面積が余れば設けるべきである。

会長： 面積など制約があるなかで、交流スペースを新庁舎に求めるべきかという意見になるが、全く設置しない場合は、執務室や廊下などを拡げることができる。上位のコンセプトに繋がり、後々非常に重要なポイントになる。具体的に使う可能性がある機能を挙げてよいので、意見をいただきたい。

委員： 交流だけを目的としたスペースは公民館があればよいので、不要だと思う。会議室を災害対策本部と「兼ねる」という話も出ているので、パンを販売するカフェや展示スペースになるなど、様々なことができるオープンスペースを考えるのがよいと思う。

委員： 先日視察をした 2 つの市役所は、「兼ねる」という考え方が盛り込まれていたと思うので、そうした考え方を活かしながら、どこまで市民の交流スペースを設けるか工夫できればよい。

会長： スペースが限られているなか、「兼ねる」というキーワードはかなり大事だと思う。他はないか。

- 委員： 公民館や市民会館が市民の交流スペースに適していることは知られているはずだが、外国人は同所のイベントにあまり参加しない。日本語で行われるイベントが多いからか、開催情報を知らないかは不明だが、一般の日本人より市役所を訪れる機会が多いと思うので、情報を発信できる交流スペースを設けることには大きな意味があると思う。
- 委員： 公民館は、部屋を予約しての団体利用が主である。日本語教室は情報が発信されるため来る方が多いが、情報が伝わらないイベントに来ることは恐らくない。公民館にオープンスペースというイメージはなく、限られた人の交流の場と感じる。
- 市役所の1階で多くの外国人を見かけたことがある。申請時に色々質問をする人もいたため、市庁舎に色々な方が交流できるオープンスペースを設けるのはよいことだと思う。
- 委員： 外国人はその方たちだけでコミュニティを形成している。家族ぐるみで交代で家を訪れて食事などをしており、楽しく自由にやっているように見える。市庁舎にオープンスペースを作って訪れるように促しても、国によって習慣などが異なるので難しいと思う。
- 会長： それぞれの国のコミュニティが全く関わりなく活動をしていると、近隣などで意思疎通をする時にキーになる人が分からずに困る恐れがある。蕨市の外国人の割合はかなり高いが、そういった仕掛け作りについてどう考えているのか。
- 事務局： 市としては、在住外国人と交流を図るため、公民館や体育館などで外国料理や多国籍での運動会を行う「みんなの広場」を開催するなど、多文化共生に係る取組みを積極的に進めている。
- 市役所に来る外国人は、転入・転出の手続きで市民課のロビーなどに多くいる。その他、ある団地ではコミュニティが形成されているほか、町会においても多文化共生の取組みが行われていると聞いている。
- 委員： 上位6位までの説明について、機能に関しては1回目の発言がよくまとまっていると思うが、前回の視察で、「周辺環境との調和」という視点が必要なことに気付いた。敷地面積が制限されるため、最大限に機能を盛り込む場合、敷地の広さや高さを限界まで使うか考慮する必要がある。
- 中山道と県道の近隣という立地条件も考えて、市役所が果たす役割として、必要な付加機能を考える必要がある。
- 委員： 市役所は基本的に行政サービスの拠点になるため、限られた敷地と予算のなかで、必要な機能を確保する必要がある。特に、会議室の多機能化や自家発電設備など災害時の安全性を高めるためには、維持管理費がかからないよう長期的視点で考える必要がある。

外国人交流の場合は余裕があれば考えるべきだが、来庁時に公民館のイベントなどを案内する窓口を置いて、情報発信機能を兼ねれば、解決すると思う。

また、少子高齢化で上昇傾向にある民生費を節約するため、桶川市が用いた木材使用に係る県助成金などの情報を収集して活用する必要がある。

最後に、日照など近隣に係る制約があるのなら、周辺住民に代替地を用意して敷地面積を広げて、少しでも駐車場などを確保してほしい。

会長： 基本理念の A 案、B 案をみると、周辺環境との調和については、「人と環境にやさしく」や「みんなにやさしく」という部分に含まれる印象はある。また、外国人の話は、「市民に親しまれる」などの言葉に含まれると感じる。予算や土地の制限があるなか、しっかり必要なものを造るべきという意見については、「コンパクト」がキーワードにもなるため、ある意味うまく抽出された言葉だと思うがどうか。

委員： 各委員の意見を実現するとコンパクトにならないと思う。市民アンケートでは、「災害対応の拠点となる安全・安心な庁舎」が一番重要となっている。しかし、色々な機能を持たせる場合、安全な庁舎は耐震か免震かでも大きく変わり、ガラスがない方がよいという極端な話にもなる。何をコンパクトにするつもりなのか事務局に聞きたい。

会長： 「コンパクトシティ蕨」がベースにあると感じたが、事務局は何かあるか。

事務局： 国の基準で算出した蕨市庁舎の適正規模は約 8,000 m<sup>2</sup>になるが、吉川市、桶川市もそうした大きな基準の中で、機能を充実して完結していると考えてる。

委員： 機能面をコンパクトにはしないということか。

事務局： 一通りの市役所としての機能を十分発揮できる市役所を目指している。

会長： 先ほど「兼ねる」という意見があったが、工夫次第では、多機能だがスペースを抑えることは可能だと思う。広い市庁舎に特定のスペースを造り、空き部屋が多くある状態は難しいので、「兼ねる」という考え方で上手く運用できれば、各委員が考える機能をコンパクトにできると思う。

委員： 多機能という表現であれば理解しやすい。色々な機能を持たせるのはよいと思う。

委員： 「コンパクトシティ」は国土交通省が作った言葉だが、元々市域がコンパクトなのが蕨なのでこだわらない方がよい。今の発言のとおり、各空間の稼働率を考えて、多機能化してより充実した機能を生むことが大事だと思う。

委員： 話の流れを変えるが、基本的なことを確認したい。基本理念は 1 文で表現したものを決定してパンフレットなどに刷るのか。それとも、1 文が先頭にあって、細かい説明が箇条書きで続くのか。1 文で表現するのは無理だと思うので、基本理念を箇条書きで 3 つ程度掲げている他自治体のようにしたほうがよい。

また、基本理念案のワードは、市民アンケートの上位から優先して選んでいるため、今まで議論した蕨の歴史的な経緯などが出ていない。しかし、蕨の場合、市民の交流や地域という言葉は毎年のお祭りや中山道沿いの行事と密接に関係している。B案の「未来の蕨」に含まれるとするのは、曖昧に感じるため、もっと市民に親しまれるという意味も含めて、「蕨のまち」という言葉を含めたらよいと思う。

事務局： まず大きな方向性として基本理念を決めたうえで、箇条書きになっている基本方針を決めたいと考えている。

基本方針は、あまり挙げ過ぎて焦点がぼやけないように、皆さんが総じて考えることを優先的に挙げて、6位までの項目にしている。

「まちのシンボルとなるようなすぐれたデザイン」など後ろの順位の低い部分についても、庁舎として必要な機能は整備する必要がある。ただし、基本方針として述べる必要があるかについては、重要度を踏まえて抽出することにより議論いただきたい。

会長： 今の意見も踏まえて、次回に文の長さは分からないが、まず基本理念を1つ頭に掲げたうえで、機能について決めればよいと考える。

委員： コンパクトという言葉に色々な見解があったが、土地の面積も含めて、経済性に配慮するという概念もあるので、一言で表現する言葉としては使えると思う。別の言葉に置き換えてもよいが、同様の概念を示す言葉は冒頭に必要と感じる。

会長： 経済性や多機能などそうした概念を代表できる言葉があるとよいと思う。

委員： コンパクトは量の話であり、多機能とコンパクトは両立できる。よって、コンパクトという言葉を用いることには賛成である。

B案の「未来の蕨を創造」は、どこから出てきたか分からないが、行政サービスは未来だけを見て創造するものではなくて、現在や過去のためでもあるため、根本的にずれている。

事務局： 「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンで、「みんなで未来の蕨を創る」という理念を掲げている。これまでの蕨の歴史を踏まえて、今の蕨市と市庁舎があるため、新庁舎が今後70年なり未来の蕨のまちづくりを進める拠点になることをイメージしたのが、「未来の蕨を創造」というフレーズである。

副会長： コンパクトにしたというのは市民へのアピールにはなるが、職員アンケートで不足する機能が多いという結果が出たにもかかわらず、コンパクトにできるか心配である。

事務局： 我々が言うコンパクトはある一定水準を目指すものである。従って、新庁舎の面積は現庁舎より大きくなるが、コンパクトにすることができる。コンパクトの達成については大きな問題にならないと認識している。

会 長： 多様な意見があつて、A 案、B 案を挙手で決められないと思うので、今回いただいた意見を踏まえて、多機能や経済性などコンパクトに代わる言葉があれば提案いただきたい。意見がなければ現在の案で進めることもできる。

第 1 回審議会に続いて周辺環境の話もあつた。やはり、文化、歴史、蕨宿など蕨らしさが基本理念に何らかの形で入るのがよいと思う。1 位から 6 位までは、庁舎に共通する考えであり、他市の事例を見ても、類似した文言が出てくる。

委 員： 地域活性化やまちづくりは言葉で言うのは簡単だが、核になるものがある自治体は少ないため、人工的なフレーズを作るなど苦勞をしている。どこの自治体でも必ず言うフレーズでは目標にはならない。蕨市は、中山道沿いに位置して歴史的な経緯や文化があるため、新庁舎建設の基本理念では、「蕨らしさ」を強調すべきだと思う。

会 長： 次回の審議会までまだ時間もあるため、今回いただいた意見を踏まえて、上手く盛り込める文言を事務局で再度検討いただきたい。

また、今の意見は非常に重要であり、事務局に丸投げはできないと思う。各委員も、よいフレーズがあれば事務局に連絡してほしい。

委 員： 先程の発言に同意する。蕨ではやっている「愛する蕨」や、会長が言った「蕨らしさ」をどのように出すかは非常に大事である。ただし、具体的な表現は今すぐには思い付かない。

会 長： それでは、基本理念案については、次回も引き続き議論を進めたい。機能に関しては、恐らく皆さん共通の認識があると思う。次の議題 6「新庁舎に求める役割と機能（案）」について事務局から説明いただきたい。

#### (6) 新庁舎に求められる役割と機能（案）

事務局から、会議の資料について説明した。

会 長： 事務局から提示された機能はかなり網羅されているが、前回の視察なども踏まえて、皆さんが考える役割と機能について、気付いた点など意見をいただきたい。

委 員： 1 番「防災拠点となる安全・安心の庁舎」に関して、昨年、鬼怒川上流が 600 mm 近い雨で決壊して新庁舎が浸水孤立した常総市を視察した。

また、今年は荒川の上流を視察した。堤防がしっかりしており、少々の雨なら大丈夫なようだが、想定外の雨量があつた際に、蕨市がどうなるか説明も聞いたので、改めて強い防災意識を持ちたいと考えた。

会 長： 一番重要なことだと思う。他はどうか。

委 員： 2 番「誰もが利用しやすい高い利便性を備えた庁舎」の会議・打合せ機能

について、大人数の会議室に加えて、2～4人の少人数で利用できるプライバシーを確保した相談室も適正量を確保すべきと考える。

会 長： 恐らく事務局側も認識しているだろう。

いくつかポイントになる意見は出たが、まだ出ていない意見があるかもしれない。次回も同様に議論するのか。

事務局： まだ理念が決まっていないため、現在の案をベースに考えるか、蔵らしきという部分を加えるか検討する必要がある。機能については、今回の提案は基本的なものであり、付加するものや不要なものがあれば指摘いただきたい。

委 員： 機能について、例えばバックアップ設備など作ることが具体的に決まっているものはあるのか。それとも文言だけか。

事務局： まだ決まっていない。まだ設計に入る前なので、基本計画に記述する内容を検討したいと考えている。

会 長： 細かい機能まで含めて意見をもらってよいのか。

事務局： はい。ただ、基本計画に記述する際は、同じようなレベルに揃えることになると考えられる。

会 長： いただいた意見については、上位概念にあたる部分を整理していくと思うので、躊躇せずに色々と意見をいただきたい。

事務局： 次回の審議会までに何か提案があったら、事務局まで連絡いただきたい。

会 長： それでは、議題7「新庁舎の規模」について議論いただきたいと思うので、事務局から説明いただきたい。

#### (7) 新庁舎の規模

事務局から、会議の資料について、スクリーンに投影して説明した。

会 長： 今の説明に対して、質問・意見はあるか。細かい数字が色々出て少し分かりにくいですが、要は無理せずにコンパクト化できるということでしょうか。

事務局： よい。

委 員： 現庁舎より1.4倍広い6,500㎡で市の方針は概ね決まっているのか。

事務局： あくまで市の考えであり、審議会で機能を決めて検討いただいた結果、この規模で問題なければ進めたい。その際は財政負担等も考慮いただきたい。

委 員： 金の話をされると弱い。

会 長： 色々な制約条件を踏まえた形状ということだろう。

#### (8) その他

事務局： 審議会のスケジュールについて、次回の第4回は8月8日（水）午後1時15分を予定している。基本構想・基本計画を作るため、現状と課題などに

ついて冊子案を作り、理念、機能、規模についておおよそ決定したいと考えている。第5回は10月9日（火）午後3時からであり、全体の冊子案を見せたいと考えている。

今日は機能について議論する時間がなかったが、もし意見があれば事務局に提案いただければ、次回の会議で資料として出したい。

理念については、複数のタイトルを揃えたほうがよいという意見もあったが、事務局としては1つのフレーズを出したうえで、審議会で議論してもらいたいと考えている。考えるのは難しいかもしれないが、提案があれば事務局まで寄せてほしい。

委員： 理念案は、単語でなくキャッチフレーズを出すということか。

事務局： 単語でもよい。なお、コンパクトに代わる言葉については事務局でも色々考えたが、なかなか難しかった。

それから、「他自治体を視察するのも大事だが、現庁舎を分かっている人もいるので見たほうがよい」という提案が委員より寄せられた。議場などを知らない方もいると思うので、もし希望の方がいたら現庁舎を案内したい。

委員： 次回の会議は所用で欠席になるが、本日の会議概要と次回の資料はいつもらえるのか。その際に意見があれば申し上げたい。

事務局： 資料の完成は直前になると予想されるので、ヒアリングに伺いたい。

会長： 予定していた議事を終了したので、進行を事務局に返す。

事務局： 以上で本日の会議は終了とする。

会議終了後、審議会委員全員で、現庁舎の議場、4階廊下、3階廊下、特別会議室、2階廊下、1階廊下、ロビーを視察した。